

## 魅力的な未来の新潟

紫竹山小学校 6年 石田 真優子

私は新潟の未来を考えるために、今の新潟というのは他県の人から見ると、どういう風に見えるのか北海道や関東にいる私の友人に、新潟について聞いてみた。

そうしたら、お米が有名、お酒がおいしい、大きな地震があった、それだけだった。

私はその答えを聞いて、新潟をもっと魅力的にしたいと思った。

そのために考えたことが三つある。

一つ目は、ピックスワンに行く時、車やバスで行くのではなく鳥屋野潟を東京の矢切りの渡しのように舟で渡り楽しんでもらうことだ。

二つ目は、もっと環境のことを考えて、バスを利用してもらうように、町内の小さな路地まで運行できるような小型バスを作るという考えだ。

三つ目は、新潟市は合併で大きくなり、数年後には政令都市になる。その記念として大きなお祭り（例えば青森のねぶた祭りや札幌の冬まつりのような、全国の人が集まる祭）などの行事を作ることだ。

この三つの考えで一つ共通する所がある。それは、どの考えも新潟の人々が協力しなければならぬということだ。

例えば、一つ目の鳥屋野潟を舟で渡り楽しんでもらう考えは、みんなでまず協力して鳥屋野潟をきれいにしなければならない。

二つ目の町内の小さな路地まで運行できるような小型のバスを作る考えは、バスのデザインやコースなどを協力して決めなければならない。

三つ目のお祭りなどの行事をつくる考えはどこで行うかまた、どのように行うのかを考えるとき協力が必要となる。

このように、新潟をもっと魅力的に変えるには、人々が協力しなければならないということが分かった。

未来の新潟を、もっとよくするには、やはり今が大切だと思う。

今から、みんなが少しずつ動き出して、新潟の未来を明るくしたいと私は考える。